



TITLE:

「物理化學の進歩」刊行に就て

AUTHOR(S):

堀場, 信吉

CITATION:

堀場, 信吉. 「物理化學の進歩」刊行に就て. 物理化學の進歩 1926, 1(1): 1-3

ISSUE DATE:

1926-10-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/45788>

RIGHT:

『物理化学の進歩』刊行に就て

科學の進歩は日一日として休止する時はない。特に近時に於ける物理學及び化學の進歩は實に目覺しいものであつて科學進歩の歴史上後世から見ても現代は必ずや一つの光輝ある時代として残るだらうと思はれる。私共此の時代に於て科學の一部門の研究に身を委ねてゐる者は自分の研究が世界學術進歩の潮流に對して何様の關係があるかを絶えず注意して互に研究上の努力が無意義の事に費されぬ様に努め而して吾人の仕事が出来得るだけ學術の進歩に貢獻する様にせねばならぬ。然しながら現代の如き學術の進歩の急激なる時に於ては最新の進歩の状態を理解する事すら可なり困難の事である。今之を私共の問題としてゐる『物理化学』に就て見るに物理化学の純理方面に於ては物理學化學の兩方面に亘り其の進歩を絶えず注意する必要があり、其の應用方面に於ては工學醫學農學其の他各學科に亘り注目を要するものであつて其の範圍が極めて廣い。爲めに物理化学最近の進歩を知つて行く事のみでも大なる努力を要するものである。たとへ自身の研究して居る方面に關しては世界の誰れにも劣らぬ自信を有する人であつても物理化学各方面に亘つて日々進歩して行く世界の形勢を見る事は可なり難かしい事である。其の爲めには適當なる紹介者によつて最新の知識を得る事が最も便利の方法であらねばならぬ。内外の各専門雜誌に附屬せる論文抄録の一部の目的は最新の研究を成る可く早く紹介するにあるが普通の抄録では何の雜誌に此の様の研究が表はれたかを大體知る程度であつて其の内容を解する事は一般に困難である。英の Chemical Society の Annual Reports, 獨の Ahrens の Sammlung, 又 雜誌 Naturwissenschaften の特別號及び

(2)

物理化学の進歩刊行に就て

Ergebnisse der exakten Naturwissenschaften 等は上述の目的に適合したもので極めて重寶のものである。然し物理化学のみに就て發行せられて居るものは未だ何れの國にもない。又此の如き紹介は特に邦文にて記されたるものを吾人は要求し若しかゝるものが出来ればいかに研究上便宜を得るか吾人は考へて居つた。たゞ此の如き雑誌又は書籍の編纂は日本に於ける多數の専門家の協力により各自専門の部分を担当して始めて完全なるものが出来ると思ふ。然しかゝる事業には幾多の困難が伴ひ急に實行の運びに至る事はむづかしい。此處に於て吾人はやゝ無謀の誹があるかも知れぬが現在の京都帝國大學の物理化学研究室の各員が協力執筆して「物理化学の進歩」なる定期の刊行物を出版する事とした。

完全なる事を望んで永く不實行の儘で放つて置くよりも不完全であつても實行の可能性ある事を試み漸次進歩せしめて行きたいのが吾人の希望である。現在にあつては吾が研究室の人員も少なく研究してゐる方面もある限られたる方面のみであるが爲めに各自執筆するものもある部分に偏して物理化学全般に亘つて其の進歩を紹介する目的には不充分であるかも知れぬ、たゞ吾が國に於て日々物理化学に興味を有する人が増加しつつある今日幾分にてはそれ等の人々の研究に便宜を與へ得たならばこれ又吾人が學界に貢獻する一つの途であると考へて敢えて此の計畫を進めた。幸ひ第一輯は吾人の乏しい資力を以つてし至文堂主佐藤正叟氏の好意の出版によつて漸くこゝに上梓する事を得た。現在にあつては第二輯を來年二月に其の後年三回引きつゞいて出版の計畫をしてゐる。世の識者にして本事業に興味を有する人は何等かの方法に於て本出版の發展に援助あらん事を希望する次第である。

物理化学の進歩刊行に就て

(3)

此の機会に於て至文堂主佐藤正叟氏の好意を謝し且つ吾人同志の
一人なる理學士市川禎治氏が編纂に就ての努力を深く感謝する。

大正十五年七月

京都帝國大學物理化學研究室に於て

教授 堀 場 信 吉